

令和2年度佐賀プライドプログラム事業の報告書

実施主体：佐賀県

委託先法人：A S S R株式会社

1 事業名

令和2年度佐賀プライドプログラム事業

2 事業要旨

発達障害のある高等学校の生徒に対し、発達障害者支援の専門家による半年間月2回（計6回）継続的に指導・助言（個別/集団）を実施し、本人の自己認知・感情コントロール・ライフスキル向上及び進路選択（大学/就職）をサポートするとともに、参加者同士でグループワークを行い、交流を図る。

また、個別に発達検査・心理検査などの個別支援を実施し、その検査結果を本人や親に伝えることで、プログラムの効果を増進させる。

さらに、高校生のプログラム実施中、別室で親の茶話会を開催し、親同士の情報交換や繋がりを醸成するとともに、専門のスタッフが親からの相談に答えることで、親の負担軽減や子どもとの関わり方の改善を図った。

3 事業目的

発達障害のある高等学校の生徒本人の自己認知・感情コントロール・ライフスキル向上及び障害特性に応じた適切な進路選択（大学/就職）をサポートすることで、二次障害の事前防止を図るとともに、今後社会で活躍できる人材の育成につなげることを目的とする。

4 事業の実施内容

(1) 令和2年10月～令和3年3月

(2) 利用対象者

発達障害のある県内の高等学校の生徒であり、以下の4つの条件を満たす生徒6名

- ・ 医師から発達障害（LD/A/D/H/D/自閉症）の診断を受けている
- ・ 在籍する高等学校又は高等専修学校の在学証明を得ている
- ・ 高校1年生又は2年生
- ・ 事業の効果測定調査に協力できる方
- ・ 保護者が毎回参加できる方

令和2年度佐賀プライドプログラム利用者一覧

	利用者名	住所	診断名
1	A	武雄市	自閉症
2	B	佐賀市	自閉スペクトラム症 注意欠陥多動性障害
3	C	佐賀市	注意欠陥多動性障害
4	D	鳥栖市	自閉スペクトラム症 自閉スペクトラム症
5	E	鳥栖市	自閉スペクトラム症
6	F	鳥栖市	自閉スペクトラム症

(3) 実施内容

以下の内容で実施

- 1) 保護者への事業内容説明(1回1時間×6名)
- 2) アセスメントの実施(事前アセスメント1回1.5時間×6名、その他アセスメント2～3回(1回2時間)×6名、アセスメントの結果報告それぞれ1回1時間)
- 3) 個別セッションの実施
生徒本人への事前の事業内容説明
- 4) グループプログラムの実施6回(1回2時間)
生徒向けプログラム及び、保護者向けプログラム

(4) 実施体制

心と発達の相談支援 another planet 臨床発達心理士4名

5 支援の実施結果

(1) 自己認知支援

グループ指導外に、検査(ADOS-2)を実施し、生徒の正しい障害特性の理解を行った。グループ指導(計6回)においては、自己紹介、発達障害

の説明、障害特性などを考え、話し合った。ゲストスピーカー（発達障害者の先輩）の話を聞くことで、その方の特性から自身の特性に気づきを持ったり、今後自分にも起こり得るかもしれない困難さについて知ることができた。

また、保護者に対し、毎日の子どもの行動記録をつけてもらうことで、子どもの行動の特徴、感情の表現方法、感情の波などの正しい理解を促した。

（２）ライフスキル向上支援

グループ指導外に、検査（Vineland- ）を指導前後に行い、現在の生活レベルの適応行動の把握をした。結果を本人と保護者に説明し、正しい状況把握に努めた。ゲストスピーカーの方から学んだ手帳の活用や、自身で取り組む工夫と支援をうまく使ってライフスキルを向上することを確認した。保護者には、子どもへの対応の仕方（声かけの仕方やタイミング、どの部分を子どもにまかせるかなど）を伝え、その後の回で実践を報告してもらい、フィードバックを行った。

（３）感情コントロール

グループ指導外に、保護者に検査（BDI- ）を、生徒本人に対し検査（CDI）を実施し、状況把握を行った。感情とホルモン、トラウマ、対処法としてのヨガ・呼吸法・運動、いじめ、セルフアドボカシー（自己権利擁護）などについて学んだ。それぞれ自身の感情が高まった時にどうなるか、どういう対処法をしているかを話し合い、グループメンバーやゲストスピーカーの話から、今まで獲得していなかった方法を知った。保護者には、日々の子どもの行動記録から感情の理解を促した。

（４）進路選択支援

それぞれの進路についての考えを聞き、それぞれの相談に応じた。また、特性を考えての進路選択について説明を行った。ライフスキルが今後の進路においても重要なことから、手帳の使い方の説明と、実際に取り組みを数回に渡り確認・支援した。ゲストスピーカーとして、高校の先生であり、発達障害のある子を持つ親でもある方に、進路について、学校の先生との関わり方（頼り方）、保護者としての経験をはなしていただいた。

6 分析、考察

今回のプログラムに参加した生徒・保護者の感想は以下のとおりである。

(プログラムに参加した生徒の感想)

(1) 普段の生活では自分と似た特性を持った先輩のお話を聞く機会は中々ないのでこうして今回お話が聞けたこと、とても嬉しく思います。アルバイトや仕事の話、大学、友人関係やスケジュール管理、お薬のお話など、きっとこの先自分も経験していくと思うので凄く為になりました。チョコさんが話してくださったことを心に留めて、これからの生活をより良いものにしていけたらなと思います。あと、私は親に頼っているところが多々あるので、ほとんど自分で色々されていると聞いてチョコさんは本当にすごいなと思いました。

(2) 今回はKさんにゲストスピーカーとしてお話いただき、前回同様貴重なお話を聞くことが出来てすごく嬉しく思いました。スケジュール帳を使うことで気持ちの切り替えを上手く出来るようになっていったとお聞きして、私もまだ使い始めたばかりですがそうなれるように自分なりのスケジュール帳の使い方というのを模索していきたいです。また、Kさんが仰っていた「自分をいじめてくる人にかける時間ももったいない」という言葉、すごく感銘を受けました。

(3) ゲストスピーカーの方々のお話は興味深く、自分と似ている方から違う方までいろんな方のお話を聞くことで自分の将来について考えたり、自分だったらどうするだろうか想像してみたり、先人の知恵を享受したりと本当に貴重な機会を頂けたなと思います。

また、プログラムの中ではゲストスピーカーの方々のお話を聞くだけでなく、感情の仕組みや脳についての勉強、自身について話す練習や手帳を上手く活用し生活しやすくする練習などを行いました。そういった勉強をしていく中で、だんだんと自身の変化を感じるようになりました。

(4) プライドプログラムに参加する以前は、気持ちの切り替えが上手く出来ず一回沈んでしまうと中々立ち戻れなかったり、そのせいで動けずじまいしていたのですが、感情コントロールの学習をした後は学んだことを生かし感情が揺らいでも自分で通常運転に持っていけるようになりました。更に、自分が今何で苦しんでいるのかなど、漠然とした心の混沌を自己分析して把握し対策を打てるようになりました。

また、似たような環境で同年代の方々との交流は「苦しんでいるのは自分だけではない」という意識をもたらしてくれました。プログラムを終えた後に実施した検査の結果を見せて頂くと、成長が目に見えて分かり、自信に繋

がりました。

- (5) プログラムに参加したことで以前よりも自身についての理解が深まり、少し生活が楽になった私ですが、まだまだ苦しむ場面も多くあります。その度に以前先生に言われた「障害を失くすことはできない」という言葉が刺さります。でも、勿論多数派の定型の人よりも難は多いけれど、障害があるからこそ持てる視点や、人よりも優れているところがあるんだと前向きに考えていこうと思います。自分の人生は他の誰の為でもなく自分自身のものなんだということを念頭において、障害と、そして自分自身と向き合いつつこれからの人生を歩んでいきたいです。

(保護者からの感想)

- (1) 小さい頃から失敗して怒られ続けているので、少しでも回避ができればと色々アドバイスをしているつもりでした。なぜ、息子がネガティブに捉えるのか理解ができずこちらがイライラしたりして負の連鎖になってきました。大変勉強になりました。試練の連続でため息が出ない日はありませんが、色々な方のお話が聞けて良かったです。
- (2) 感情の手帳をつけることで、心と体調の繋がりが視覚化できて、たんに体調不良がつづいているわけじゃないことに気づけて良かったです。「助言をしない」は、ついつい口を出してしまう時もありますが、口出ししてしまった時は、心の中で(自己満足自己満足)と反省です。今までは先回りして失敗しないようにとあせって口を出してましたが、失敗を覚悟して見守るように意識したら気持ちに少し余裕ができた気がします。
- (3) プログラムでは、発達障害についての知識やスケジュール管理、感情コントロールについての学習、親としての接し方など、色々なことを学びました。自分達が抱えている悩みを正直に話すことが出来て、またそれをわかってもらえた事は何より心の救いでした。そして、ゲストスピーカーの方々のお話はとても貴重なお話ばかりで、今後先のことを思うと、ゲストで参加して下さった方々には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。プログラムを受けて大きく変わったのは、親の私自身が正面からちゃんと受けとめる気持ちになれたこと、そして、親子で向き合い話し合えるようになった事が何より大きな第一歩となったように思います。

上記の結果より、参加者全員に対して効果の大小はあるが自分自身を理解して発達障害に対してうまく向き合う姿勢が見られた。また対象者の保護者も本プログラムに参加させることにより、子供の障害に対して向き合う姿勢が見られた。高校生の段階では、幼児期と比較すると親から受ける影響は小さく、人格形成もかなりできているが、親が子の障害特性を理解することによりまだまだ改善の余地がある。今後は、プログラムの検査結果を精査して、効果的な自己認識の方法や親の子に対する効果的な接し方について検討していく。

6 成果の公表実績・計画

佐賀県ホームページで取り組み結果を公表する予定である。